

8月16日（日）主日礼拝レジュメ

「福音がもたらす大きな喜び」 使徒の働き 8章5～13節

5節からはピリポの働きが出てくる。

ピリポも6章5節で食卓に仕える者として選ばれた者の一人で、信仰と聖霊に満ちた人物だったので、8章7節に記されているようなみわざや13節にある「しるしと大いなる奇跡」を行うことができたのだろう。

5節「ピリポはサマリアの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝え」始めました。サマリア人はアッシリア民族との混血だったので、ユダヤ人からは嫌われていて、イエス様もルカの福音書17章18節でユダヤ人の立場からサマリア人を「他国人」と呼んでいる。

しかしヨハネの福音書4章において、イエス様はユダヤを去ってガリラヤに行かれる時に、「しかしサマリアを通して行かなければならなかった。」とある。つまり、イエス様のみこころがサマリアにあった。実際に、その後39～41節で「さて、その町の多くのサマリア人が、『あの方は、私がしたことすべて私に話した』と証言した女のことばによって、イエスを信じた。それで、サマリア人たちはイエスのところに来て、自分たちのところに滞在してほしいと願った。そこでイエスは、二日間そこに滞在された。そして、さらに多くの人々が、イエスのことばによって信じた。」とありますように、多くのサマリア人がイエスを信じた。

使徒の働き8章12節「しかし人々は、ピリポが神の国とイエス・キリストの名について宣べ伝えたことを信じて、男も女もバプテスマを受けた。」とあるように、再びサマリア人たちは福音に応答した。私たちも、福音を宣べ伝える時に、偏見を持つが、神のみこころは人の考えや思いをはるかに越えていること、福音はすべての人たちのためのものでもあると信じたい。逆に

信じるべくして信じたなどという人は一人もいない。救いにあずかったのは、ただ神の恵みだった。もし仮にピリポが、サマリアの人たちにみことばの福音を宣べ伝えても仕方がないという気持ちを持って、サマリアへ行かなければ、そこで福音を聞くはずの人が聞けなかった。私たちも自分の一方的な先入観を捨てて、回りの人たちに福音を宣べ伝えなければならない。ピリポがサマリアへ下って行き、人々にキリストを宣べ伝えたことで、1章8節「しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」とあるようにイエス様の語られたみことばが一つ成就した。

なぜサマリア人たちはピリポのことばに応答したのか。神様が働かれたことは間違いありませんでしたが、サマリア人たちのメシヤ観が影響した。彼らは、申命記18章15～18節からモーセのような一人の預言者を待ち望んでいた。モーセが大いなるみわざを行ったように神のわざを行い、モーセが民に律法を与えたように、神のことばとしての律法を回復し、また礼拝を新しくし、知識をもたらすようなメシヤを待ち望んでいた。6節を見ると、人々の関心を集めたのが、ピリポがキリストを宣べ伝えたことと彼が行っていたしるしだった。8節「その町には、大きな喜びがあった」とあるように、主の御名が証しされ、宣べ伝えられて、主のみわざがなされるところには必ず喜びがある。

9節からは魔術師シモンが出てきて、9～11節に、この人がどのような人物であったかということが記されている。しかし、サマリアの人々の関心は魔術師シモンからピリポへと移っていった。12節「しかし人々は、ピリポが神の国とイエス・キリストの名について宣べ伝えたことを信じて」とあります。神の支配を通しての神の力と神のみわざやイエス・キリストの御名を信じる信仰による罪の赦しと永遠のいのちを宣べ伝えた。そして、人々はそれを信じて、信仰の証しとして男も女もバプテスマを受けた。まずサマリア

の人々は、6節でピリポの話しを聞き、関心を抱き、そして12節で信じて、バプテスマを受けた。まずは、人々に関心を持っていただくことが必要。そのために私たちも遣わされたところで、機会を捕えて主を証ししたい。

9節で魔術師シモンは「自分は偉大な者だと話していた」とある。しかし、ピリポはただ人々にキリストを宣べ伝えた。人々が自分にではなく、彼が語ることに関心を持つように導いた。そして、ただ人々が神の国とイエス・キリストの名について宣べ伝えたことを信じるようにと導こうとした。仮に7節にあるようなみわざをなしても、彼は決して自分が評価されること、自分に関心が集まることを望まなかった。これが、まさに信仰と聖霊に満ちた者の姿であり、私たちも、このピリポの姿にならわせていただきたい。